

見上げた空がグリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2012年度 Vol.1

しながわ ECO フェスティバル 未来につなぐパートナーシップ 2012



5月27日(日)、晴れわたった青空で強い日差しのもと、最高のECOフェスティバル日和になりました。今年もしながわ中央公園をメイン会場として「しながわECOフェスティバル2012」が開催されました。

濱野区長の挨拶の後、資源リサイクル活動等を推進してきた25団体に対し感謝状と記念品が贈呈されました。

●ステージアトラクション

恒例のステージアトラクションは今年も健在です。

お茶犬 環境「ほっ」とバラエティに始まり、和太鼓演奏、eco実験パフォーマン



スショー、創作竹楽器演奏、絆ファッションショー、吹奏楽演奏、ごみの中からこんなもの展・抽選

●くらしを守る青空市

品川区消費者団体連絡会主催による青空市では、「新鮮なもの 安全なものを即売！」ののぼりが、野菜や果物を求めるお客さんを呼んでいました。



●ごみ、資源回収



に分別回収されていました。

エコ容器、生ごみ、割りばし、燃やすごみ、びん、カン、ペットボトル、陶器・ガラス・金属ごみなどが、使った人(お客さん)や高校生のみなさんの協力によって、きれい

また、今年も国産間伐材・端材から出来た割り箸を1膳10円で販売し、その売り上げは東日本大震災復興支援の義援金になります。

●再生園芸土の無料配布及び不用園芸土の回収

最近では花を愛でる、野菜を育てる方が多く、皆さん列を作って配布を受けていました。



●「エコな車」乗車体験

地球温暖化の原因となるCO₂、大気汚染の原因となるNO_x(窒素酸化物)などを走行中に一切発生させない「電気自動車」、水しか排出しない静かな次世代エコカー「燃料電池車」の乗車体験がありました。また「電気自動車のカーシェアリングでエコ対策」という紹介もありました。



●太陽エネルギー見本市

太陽光利用機器システムや高効率機器の紹介、住まいの省エネ相談、区・都・国の補助制度の紹介があり、相談や熱心な話し合いが行われていました。



公園会場における使用電力はすべて自家発電で賄われました

スポーツGOMI拾い大会 in 大井

5月20日(日)「2012年度スポーツGOMI拾い大会in大井」が開催され、約100チーム(5名/チーム)500名が大井町駅前中央通りに集まりました。

この企画は「環境美化」「3Rの推進」に重点を置いた、行動変容を促すプログラムで、ごみ拾いを「環境奉仕活動」から「スポーツ・競技」へ変換することにより、参加者同士が楽しくスポーツとしてごみ拾いを行うことを通して、参加者の環境に対する意識を向上させようとするものです。

競技時間60分の間に、指定されたエリア(大井サンピア商店街、大井銀座商店街、大井光学通り商店街)内で拾ったごみの



質と量を競うものです。ごみにはそれぞれポイントが決められており、たばこの吸い殻は100g(以下同じ)で100pt、ビン・缶・ペット

ボトル、燃えるごみは10pt、燃えないごみは5ptなどです。スポーツチームのユニフォームを着たチームが多く、きびきびしたグループ行動が、スポーツ大会であることを一層強く印象づけました。



自然エネルギー探訪記

第1回 太陽光発電 ユーザー体験記(3年間の発電記録)

自然エネルギーと聞いて、一番身近に感じられるのは、太陽光発電ではないでしょうか。最近、「この4月末に、国内の住宅用太陽光発電システム設置は100万件を突破した」と報道されました。品川区内のあちこちの公園では、照明と一体の太陽光パネルをたくさん見かけます。



我が家でも3年前に4.05kWの太陽光発電システムを取り付けました。実際にどんな効果、効用があったのか、ユーザー体験記を少しご披露したいと思います。

- ①震災などによる長期停電時でも、お日様が出ている時間には最大1.5kWまで電気を自給できる安心感がある
- ②昨年の電力供給不足時、節電ピークカットに貢献できたこと。真夏の昼間の冷房用電力は東京電力から買わずに自給。更に発電余剰分を売電供給できた
- ③付属の液晶モニターがスマートメーターになり、電力消費が“見える化”。昨年1年間で25.3%節電達成
- ④「ナイト10」という昼間高く、夜安い電力契約に変更し、節電型生活リズムに変えたことで、昨年1年間だけでも前年比で約2万2千円の電気代節約等です。全てやってみなければ分からないことばかりでした。

設置費用は補助金を引いて、自己資金分が約210万円。売電収入と買わなくて済んだ電気代の過去実績をもとに投資回収予想期間を計算すると、17年になります。寄せ棟屋根に無理に多くのパネルを設置し過ぎたことや、木陰による季節的な発電低下のために、少し成績が悪いかもしれません。しかし、今後の電気代高騰やCO₂削減の環境価値販売による回収期間前倒しが予想されますし、今のところ故障も全くなく、前述の①~③のプライスレスなメリットを加味して考えていますので、私自身は十分満足しています。



(環境記者 林 彰一 氏)

継続は力ない

しながわ環境大賞受賞団体、その後の活動

昨年度のしながわ環境大賞を受賞した3団体に、受賞後の活動について伺いました。各団体とも受賞した活動は完全に定着しており、地域の環境保全に貢献しています。

「山中おやこエコクラブ」 今年度の活動スタート

5月19日(土)、今年度の「山中おやこエコクラブ」がスタートしました。当クラブでは、自然と触れ合うイベント企画や学校の屋上菜園の管理作業などを行うことにしています。

はじめに山中小学校田邊校長先生から、この活動を学校の中心イベントの一つにしたい旨の話があり、活動紹介に続き、屋上菜園でトマト、きゅうりなど夏野菜の苗植えを行いました。



平成21年度から継続しているこの活動は、今年度も毎月1回土曜日の午前中、主に校庭や屋上菜園で身近な自然に親しみ、環境にやさしい活動を行うことにしているとのことでした。



子どもたちには、自然とかがわることにより環境を思う気持ちを育むとともに、危険だからダメとは言わないで、やりたいことをさせてあげたいといった話もありました。

西中延三丁目町会の資源回収活動

大賞授賞式で活動報告をされた新居崎さんから、受賞後の資源回収活動状況を伝えていただきました。

しながわ環境大賞受賞によって何か大きな変化があったということはなく、その後も毎月3回行っている、新聞紙、雑誌、ダンボール、アルミ缶の回収は淡々と続いています。ただ、資源を集積し提供してくれる町会員の対応が少し変化しているようには思います。例えば、回収日まで、家や庭の一面を埋めてしまうほど多くの資源を貯めておいてくれる町会員や、集積場へ直接持って来てくれる町会員が増え



ジュネーヴ平和通り歩道の 清掃活動

5月14日(月)、株式会社日立ソリューションズのみなさんが、就業後にジュネーヴ平和通り歩道の清掃活動を行いました。

この活動は通常は月2回行っていますが、新人の参加が多いこの時期は毎週行っているとのことでした。当日は新入社員を中心に21名が参加し、歩道に落ちているごみ、ツツジの咲く歩道の植え込み周辺や車道脇の側溝などのごみを、トングを使って丁寧に拾いました。



活動に参加した理由を新人の方に聞いてみたところ、「この活動を通じて会社周辺の街を知ることができる」、「会社がやろうという行事に参加するのは当然」など、頼もしい声も聞かれました。さらに「意識して見るとごみは結構落ちていることが分かった」というように、目的を持って行動すると新たな事実が発見できることも身体で知ることができたようです。

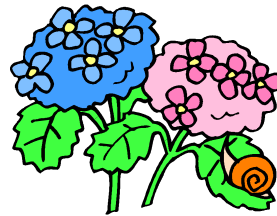


ています。そのこともあり、集積場は以前より多くの資源が集まり、平成20年～23年の月平均実績は4万5千円～5万5千円でしたが、4月の回収実績は6万2千円を超えました。この状態が定着するのかどうかは予断を許しませんが、受賞を契機に町会員の資源回収への注目度が増し、回収に対する意欲が一層高まっていることだけは確かです。

また、回収資金の運用に関する町会細則を整備し、より積極的に町会員のために資金を使えるようにしたことにも変化は現れていると言えます。



アジサイの不思議



アジサイの美しい季節になりました。瑞々しく繊細な色合いが目を楽しませてくれます。今回はアジサイの不思議に迫ってみましょう。

★アジサイの花は、七変化といわれるように咲いているうちにだんだん色が変わっていきます。何が起きているのでしょうか。

私たちが花と思っているのは装飾花といわれる萼(がく)の部分です。アジサイはガクアジサイが変化したもの、このガクに額を当てる表記を見ますが、花を引き立てる額縁と見立てたのでしよう。アジサイはヨーロッパに渡って品種改良が頻繁に行われ、セイヨウアジサイとして逆輸入されました。今までにないあでやかな色がもてはやされ、現在植栽に多く使われています。



花は初め白っぽく、うすい緑色です。それが色付き、時間がたつにつれ色鮮やかになり、そしてだいに色あせていきます。細胞の老化によって色が変化するのです。

★同じ株に咲いているのに花によって色が違うことがあります。どうしてでしょう？

花の色はアントシアニン、助色素、アルミニウムの三つが関わります。アントシアニンの研究から、花の一個一個の細胞ごとに色が違うことがわかってきました。色素の発色を助けて安定化させる助色素の働きも必要です。またアルミニウムは色の発現の重要な要因となるようです。同じ株でも色が違うのは、細胞レベルの話といえるでしょう。

通常、酸性土壌では青、アルカリ土壌ではピンクとなります。日本は火山地帯で雨も多く弱酸性の土壌なので青系が主流です。



環境情報活動センター 環境学習講座開催予定

●風力発電機を作ろう

(小学生と保護者)

ペットボトルで作った羽根車に風を吹きつけて発電機を動かし、モーターを回します。再生可能エネルギーの風力発電の工作と実験をします。

日時／7月8日(日)14時～16時

●地球の温暖化とエネルギー問題 (一般)

温暖化は人類のせいでしょうか。原発事故でにわかにエネルギー環境が変化している昨今、環境問題とエネルギー問題についての話です。

日時／7月13日(金)14時～16時

●牛乳パックで「はがき」を作ろう

(小学生と保護者)

森林資源の話や紙パッキリサイクルの仕組みなどを勉強しつつ、手すきはがき作りを体験します

日時／8月10日(金)13時30分～16時

夏休み

こども環境学習講座

①生きもの博士になろう

自然とのふれ合いから生きものについて楽しみながら学び、エコな作品を作ります。

日時／7月22日, 23日, 30日
(13時30分～15時30分)

②キッチンからはじめるエコロジ

身近な食を通して、楽しみながら環境について学びます。買物・調理・片付けなどすべての内容で環境に配慮した料理を作ります。

日時／8月1日, 2日, 3日
(14時～16時)

①②共通

対象／小学生

(3年生以下は保護者同伴)

講座の名称はいずれも仮称です。

応募方法等については「広報しながわ」や「品川区環境情報活動センター」のホームページに後日掲載します。

しながわECOだより2012年度Vol.1

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日：平成24年6月22日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう



ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2012年度 Vol.2

小学生が夏休みに 環境をテーマとした勉強と実験、工作 を楽しみました

生きもの博士になろう 7月22,23,30日

(環境情報活動センター、しながわ中央公園)

講師：NPO法人生態教育センター 村松亜希子氏、佐藤真人氏

①みる、きく、さわる！ 五感で自然遊び

〈見る〉スライドを使って、草木等に隠れている虫探し。〈嗅ぐ〉ドクダミ、クサギ、ローズマリーなど特徴のあるにおいを嗅ぎ取りました。摘ませていただいたハーブを使って石けんをつくりました。



②遊んで発見！植物の魅力

植物の葉っぱを観察し、公園では植物探しのビンゴゲームを行いました。植物について楽しく学ぶとともに、葉っぱのスタンプでオリジナルエコバックを作りました。



③生きものに挑戦！

アリのように、においを嗅ぎ分けながら食べ物にたどりつくゲームで生きもののおどろきの技を体験しました。公園ではチョウが卵を産む葉っぱを探すゲームをしました。また、公園で拾ってきた葉っぱや枝を使って 昆虫ポストカードを作りました。



室内での体験ゲーム、工作、そして公園での自然観察と、バラエティーに富んだメニューに、子どもたちの弾ける笑顔、真剣な眼差しが印象的でした。

キッチンからはじめるエコロジー

地球にやさしい旬の料理をつくろう！

8月1,2,3日(ぎゅりあん調理講習室)

指導：東京ガス株式会社南部支店

エコクッキングインストラクターのみなさん

身近な「食」を通して楽しみながら環境問題を考えようというこの講座には、子どもと保護者計132名が参加しました。調理室は連日美味しい香りと、元気な子どもたちの熱気でいっぱいでした。

環境に配慮した「買物」・「料理」・「片付け」に



至る一連の流れの説明、調理を通じた「食の育成」についての話と調理のデモンストレーションが行われました。旬の食材を買う、無駄なく使う、省エネな湯の沸かし方、洗い方の工夫で水を節約、チラシをごみ入れとして使用、汚れた皿は古布で拭いてから洗うなど、誰にでもできるエコなポイントがたくさんあります。

それでは実習開始です！

今年のメニューは「ecoオムライス」と「いちごみるく寒天」の二品です。どちらも美味しくできました。いただきま〜す。自分たちが調理した料理の美味しさはひとしおでした。



こんな講座を開催しました

平成24年4～8月

4月29日、30日 (一般)

さき布から“ぞうり”を作ろう
古布を使ってオリジナルぞうり作り



5月13日 (小学生と保護者)

林試の森公園で自然の不思議発見！
公園内で五感を使って自然観察



5月20日 (一般)

カナダ極北の大自然の動物とイヌイットの人たち
地球温暖化の影響によるカナダ極北の野生動物たちの暮らしの変化



6月3日 (一般)

今年こそ緑のカーテンを作りましょう
作り方を学び、種を蒔き、持ち帰った材料で続きは各家庭で

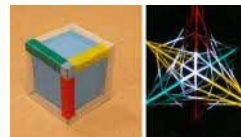


6月9日 (一般)

「江戸」の市民生活の実情を探る
「江戸」がエコロジー社会を形成していた話

6月17日 (小学生)

身近なもので作ろう
“世界でひとつの立方体万華鏡”

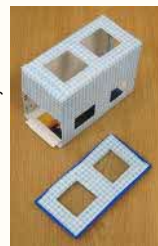


LEDや省エネについて学び、光の不思議を体験

6月24日 (小学生)

牛乳パックで立体めがねを作ろう

牛乳パックの2ヶ所を切り抜き、レンズを入れ、視差のある2枚の写真を見るとなんと3D画像が！



7月8日 (小学生と保護者)

風力発電機を作ろう

ペットボトル、羽根車、モーターで風力発電機作りと実験



7月13日 (一般)

地球の温暖化とエネルギー問題

エネルギー環境が変化している昨今、環境・エネルギー問題についての話



8月10日 (小学生と保護者)

小学生のための“牛乳パックではがき作り”

牛乳パックの原料である森林資源の話聞き、手すきのはがきづくりを体験

秋の七草「ススキ」

いよいよ食欲の秋到来です。春の七草がどれも食べられるのに対して秋の七草（ススキ、ハギ、キキョウ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、クズ）は花を愛でる風流なものです。七草が季節でこのような違いがあることはふしぎです。

秋といたら一番に「ススキ」が挙げられます。山里では8月中ごろススキの穂が出始めます。

日中の陽射しが強くとも、穂が風に揺れる様子は、秋の訪れを感じるのに十分な光景です。平地でススキが花盛りになる頃は、名月観賞の時期に重なります。

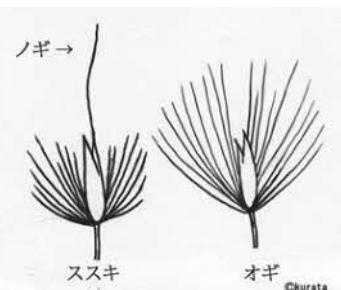


さて花はどれでしょう。イネの仲間には花びらはなく、穂にはおしべとめしべだけが付いています。この時期穂全体は、赤っぽく見えます。穂がふわふわになり、種が熟したら、風に乗って飛んでいきます。この時期のススキを、キツネやタヌキのような動物のしっぽに見立てて「尾花」とも呼びます。

ススキは「薄」と書きますが、この字は草が生い茂る状態をいい、もともと固有の植物を指したのではないようです。

もう一つのススキという字「芒」はノギとも読み、これは小穂のトゲ状の突起のことです。ただ字の下の部分が「亡」なので日本では「薄」が好まれて使われるのでしよう。

ある時「ススキがきれいなねー」という人に「あれはオギ」と言ったところ、秋の風情を楽しんでいるので、名前を聞いたわけではないとしかられました。



「♪河原の枯れすすき」

に出てくるのは、この「オギ」の方で、湿地に生えるススキの仲間です。オギには「ボウガヤ」という呼び名もあり、ススキと較べて大型で、穂は白が勝っています。オギにはノギはありません。

茅葺屋根にはススキが使われますが、カヤは「茅」「萱」で表わされるように、イネ科の総称として使われる場合も数多くあります。

屋根をふき、家畜のえさとなり、人の暮らしとかかわりが深い「カヤ」は野生動物の住みかにもなります。利用の代表はなんとといっても「カヤネズミ」でしょう！写真はイネに作られた「巢」です。



秋の景色になくはならないススキは、庭園にも植えられています。見かけたらノギの有無や花、穂の色の具合など、確かめてみましょう。

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)

冬に向かって節電してみませんか！

1年の中で夏の電力需要が多いことはよく知られていますが、冬の需要も多いことをご存知ですか。いろいろな節電の方法をご紹介します。

冬の夕方の消費電力が多いのは、

①エアコン、②照明、③冷蔵庫、④テレビ、④電気カーペットの順です。通常、エアコンを使用していない家庭では、①照明、②冷蔵庫、③テレビです。



- 重ね着などをして、室温20℃を心がける。
- 窓には厚手のカーテンを掛ける。



- 不要な照明をできるだけ消す。



- 画面の輝度を下げる。
- 必要な時以外は消す。



- 冷蔵庫の設定を「弱」に変える。
- 扉を開ける時間をできるだけ減らす。
- 食品をつめこまないようにする。

〔「冬期の節電メニュー（ご家庭の皆様）」
平成23年11月 経済産業省 より〕



- 早朝にタイマー機能で1日分をまとめて炊く。
- 保温機能は使用せずに、よく冷ましてから冷蔵庫に保存する。



- 便座保温・温水の設定温度を下げる。
- 不使用時はふたを閉める。

【待機電力】・リモコンではなく、本体の主電源を切る。

- 使わない機器はプラグを抜いておく。

【その他】・省エネ家電に買い替える。

- 白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換する。

自然エネルギー探訪記（第2回）直接メタノール型燃料電池搭載のヨットでクルーズ体験

今回は、大阪まで出張し、世界でも珍しい燃料電池とモーターを搭載したヨット「ブルーノア号」に試乗する機会がありましたので、レポートします。



燃料電池は、シリーズ名「自然エネルギー探訪記」の“自然エネルギー”に該当するかというと微妙ですが、燃料に水素やメタノールを利用し、二酸化

炭素排出が大変少なく、クリーン電源として脚光を浴びているものです。この燃料を太陽光や風力発電など自然エネルギーを使って生産すれば、そのエネルギーを燃料のかたちで備蓄し、必要なときに利用することが可能になります。

燃料電池の詳しい解説は省きますが、簡単に言うと、燃料である水素と空気中の酸素を、燃料電池セルという容器の中で反応させて電気を取り出すという、電池というよりは“発電機”です。

すでに都市ガスから水素を生成する“エネファーム”という家庭向け燃料電池が実用化され、一般販売されています。また最近では、2015年に大手自動車会社が燃料電池車を発売する計画という新聞報道もありました。

ヨットの場合は基本的には風まかせですが、無風時、非常時にはディーゼルエンジンなどの動力を使ってスクリューを回し、航行します。この動力を燃料電池とモーターで代替するわけです。燃料はメタノール水溶液。船舶には水素ガスより安全で取り扱いやすいそうです。

試乗したブルーノア号の船底には、発電能力250W燃料電池（写真右下）、2.4kW出力モーター、燃料供給系装置、リチウムイオンと鉛蓄電池、充電器等で構成される駆動システムが設置されていました。

関西国際空港が間近に臨めるマリナーからの出航、帰航時にモーターで航行。本当に静かで排ガス臭もなく、海や風、自然を感じたいヨットマンには格好の未来の動力を体感できました。

1級小型船舶操縦士の免許を持つオーナーの岩崎孝彦氏は、この燃料電池システムの有効性、耐久性等の運用実証のために、今年9月、大阪からシンガポールまで6000kmの単独航海に挑むとのこと。採用されたドイツ製の最新鋭燃料電池は試作レベルで、まだ高価。しかし、住宅、車、船舶、家電製品や産業機器等にも用途が広がって、量産効果により価格は確実に下がっていくでしょう。かつて携帯電話で起こったような、爆発的な普及を予感しました。それは超小型分散型のエネルギー革命です。

（品川区環境記者 林彰一氏提供）





7月22日(日)三木小学校で開催された‘品川区民まつり’の中で「打ち水大作戦・しながわ2012」が行われました。

夏の風物詩である打ち水は、江戸の昔から行われている暑い夏に涼をとる暮らしの知恵です。カウントダウンの後、「しながわを涼しくしよう！」のかけ声に合わせて一斉に打ち水が

始まりました。今年の「打ち水大作戦」は7月22日から8月23日まで、区内十数地区で開催されました。



8月4日(土)荏原中延・昭和通り商店会において、毎月第一土曜日に開催されている「夕市」の中で「打ち水」が行われました。

打ち水をする前と後の気温は地上1mで1℃弱、地面近くの温度は1.5℃以上、下がりました。

午後5時半過ぎという打ち水



を行うには適した時間帯で、その後も涼しさを感じることができました。



品川区環境情報活動センター 秋の講座ご案内

●秋の寄せ植え (一般)

野菊(アシズリノジギク、イズオトメ)とキンカザンススキの寄せ植えをします。
日時/10月26日(金)13時半~15時半
講師/角方悦子(秋草会会員)



●光の実験~白い光の正体を探ろう (小学生)

色が見えるということの原理を学び、LEDがなぜ環境にやさしい照明なのか、実験を通して学びます。
日時/11月11日(日)14時~16時
講師/久保利加子
(科学技術振興機構ボランティア講師)



●原種チューリップと草花の寄せ植え (一般)

原種チューリップ・リトルビューティと草花の寄せ植えをします。
なお、チューリップの開花は4月頃で、写真はイメージです。
日時/11月18日(日)14時~16時
講師/奥 峰子(園芸文化協会理事)



●野生動物を語る (一般)

美しい地球を美しいまま子孫に引き継ぐことは、私たちの使命です。写真を通してそれを伝えます。
日時/12月2日(日)14時~16時
講師/吉野 信(写真家)



●牛乳パックでからくり人形を作ろう (小学生)

自分で工夫して作ったからくり人形を動かしましょう。
日時/12月9日(日)14時~16時
講師/池上景子
(アズビエル(株)教育担当)



●正月の寄せ植え (一般)

植物の魅力、特徴、育成を解説し、梅に笹、ヤブコウジなど季節の草花を添えて、お正月の寄せ植えをします。
日時/12月14日(金)13時半~15時半
講師/山崎光世(山草会会員)



講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。

しながわECOだより 2012年度Vol.2

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人
エコタウンしながわ

発行日：平成24年9月18日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2012年度 Vol.3

循環型社会の実現を旨とせよう

3つの頭文字
をとって3Rじゃ！

- ごみの量が減る。
- 処理にかかるお金が減る。
- ごみの最終処分場の寿命が延びる。
- 資源が循環する資源循環型社会へ。

分別して出された資源は新たに生まれ変わります。

- ・ペットボトルは、元のペットボトルや洋服のフリースなどに
- ・缶は、元の缶や自動車部品、建築資材などに
- ・びんは、元のびんや断熱材などに

3Rをやると

牛乳パックは、すすいで、開いて、乾かしてね



最後にやること

③Recycle リサイクル 資源として再生利用しましょう(再生利用)

資源は分別して出しましょう



紙は種類ごとにしばってね



びん、缶、ペットボトルは、さっとすすいでね

ペットボトルのキャップとラベルは、はずしてね



循環型社会をめざして

3R

を進めましょう

①Reduce リデュース ごみも資源も減らしましょう(発生抑制)

一番最初にやること

マイバックを持って
買い物にいきましょう

無駄になるものを買ったり、
買いだめをしないようにね

詰替え用を使うと
ごみが減るわ



最後まで大切に
使わないとね

まだ使えたかも・・・



しっかり水切りを
するとごみの減量
になるのよ



洗って何回も
使うことができるんだよ



つぎにやること

②Reuse リユース 繰り返し使いましょう(再使用)

ボトルは、再利用
するとごみに
ならないわ



使えるのなら
新品じゃなくても
良いわ



修理をすれば、
まだまだ使える



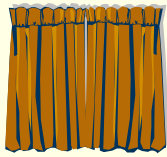
自分が要ら
なくても必要な
人がいるかも



私たちにできる冬の省エネ・節電対策

- 窓に断熱シートを貼る
- 暖房時にカーテンを閉める

〔日没前には暖気を逃さないためにも〕



- 床にカーペットを敷く
- すき間テープですき間風を防ぐ



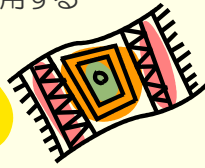
(エネルギーを使わない工夫)

リビング

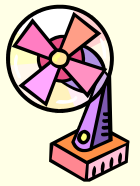
- (暖房時) 部屋のドアやふすまを閉める



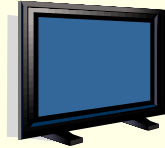
- まずは着る、重ね着をする
- ひざかけを活用する



- 扇風機を使って、天井付近の暖かい空気を室内に循環させる
- こたつや電気カーペットなど部分暖房を活用する



- 暖房の温度設定は控えめに(目安は20℃)



- テレビをつけっぱなしにしない
- 見ていない時は消す

- 白熱電球をLED電球や電球形蛍光灯に交換する
- 照明はこまめに消す



品川区の鳥

「ユリカモメ」は「海辺を群をなして飛ぶ姿は優雅であり、白翼は日に映えて美しい。海にのびる区として、これからの発展にも

つながる」として「品川区の鳥」に選定されました。翼を広げると1メートルほど、体は白く、脚とくちばしが赤です。英名はブラック・ヘッディッド ガル (Black-headed Gull 頭部が黒いカモメ) といいますが、頭部が黒いのは繁殖期だけです。

実は一年中見られる鳥ではなく、寒さを避けて冬にアジアやヨーロッパの北部から南下して、日本にやってきます。このころ頭部は白、脚とくちばしは赤で、彩りの少ない冬、美しさが際立ちます。春になると繁殖地に戻っていきます。それでも6月近くまで残っているのを見かけることがあります。「ユリカモメに限らず、若い個体は繁殖地まで帰らずに途中でぶらぶらしている」という渡りの実態や様々な生態が、野生の鳥に足環をつけて放す環境省・山階鳥類研究所による「鳥類標識調査」から、明らかになってきました。

ありわらのなりひら

在原業平の歌(名にし負わば いざ言問わん都鳥わが想う人はありやなしやと)に登場するミヤコドリは、『伊勢物語』の中の鳥の描写(体は白く、嘴と脚は赤い。シギくらいの大きさ、水鳥で魚を食べる)から、ユリカモメであるとされています。



実際に見られた隅田川だけでなく、その名のゆえに都(京都)にもいる鳥、のように思ってしまうますが、京都の鴨川で存在が確認されるようになったのは1970年代になってのことです。

紛らわしいことに、「ミヤコドリ」という和名を持つ鳥が実在します。英名はオイスター キャッチャー、名前の通り貝(オイスター=牡蠣)を食べます。特徴は赤い眼、赤く長くくちばし、そして黒い顔です。体は腹部が白くツートンカラーが印象的です。世界各地の海岸地帯に生息していて、日本にも冬鳥として飛来します。

ガラパゴス諸島で見かけた、アメリカン オイスター キャッチャーは、その名前から広域に分布するものと思っていたら、亜種レベルで固有種でした。



アメリカン オイスター キャッチャー：ガラパゴス諸島

ユリカモメによく似たズグロカモメ (Chinese black-headed Gull) は、くちばしは黒く短いので、見分けは簡単です。日本での越冬はユリカモメに混じる程度で数が少なく、主な避寒地は中国、台湾方面です。

水辺も野山も、植物が枯れる冬は鳥を見つけやすい季節です。飛び方、しぐさなど観察してみましょう。

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)

台所

- 食器を洗う際に水や温水を出しっぱなしにしない



- 冷蔵庫の設定温度を「弱」にし、熱いものは冷ましてから入れる
- ものを詰め込み過ぎない
- 開閉回数は少なく、開閉時間は短く



- 電気ポットでの保温は2時間までが目安
- 電気ポットや炊飯ジャーでの保温をやめる



- やかんで湯を沸かし、保温は魔法瓶で

- 掃除機のフィルターやごみパックはこまめにチェック



屋外

- エコドライブを行う



その他 屋内

- 風呂には家族が続けて入る



- ほうきやモップ、フローリングワイパーを使う



- 保温便座の温度設定を下げる
- 使用しないときには便座のふたを閉める



自然エネルギー探訪記 (第3回) コージェネレーション～ドイツで学んだエネルギー高効率の知恵

今年はじめにドイツのエネルギー事情を現地視察する機会に恵まれました。原子力発電を2022年までに全廃することを決定したドイツですが、その原子力発電への依存度が50%と高かったバーデン・ビュルテンブルグ州の都市や村を回りました。いたる所で自然エネルギーへの転換が今、猛烈な勢いで進められています。

自然エネルギーと聞くと、太陽光発電や風力発電が真っ先に思い浮かびます。視察では、ドイツ自慢のメガソーラーとかウインドファームと呼ばれる大規模発電所に行くのかと思いましたが、小規模なコージェネレーション（以下コージェネと略す）モジュールというガスタービンエンジン施設に案内されました。発生、発電の意味の“ジェネレーション”の頭に“コ”（共に）が付くのは、発生する熱と電気、共にエネルギーとして利用するからです。原子力発電所でも火力発電所でも膨大な熱が発生していますが、ほとんどが空気中や排水中に捨てられます。コージェネでは、発電で発生した熱を使って水を高温高压の熱水にし、暖房・給湯用として近隣コミュニティに供給しているのです。



初日、モスバッハ市郊外の農家エッゲンベルガーさんを訪ねました。彼は牧草とトウモロコシ、牧畜から出る糞尿を混合し、6週間程発酵させてバイオ（メタン）ガス



を製造している

ます。その全量をモスバッハ都市事業公社がコージェネ用燃料として買い上げ、エネルギー地産地消を実現しています。原発だけでなく、地球温暖化の要因でもあり、将来枯渇し価格も高騰する化石燃料依存からの早急な脱却をドイツ人は強く意識しているようです。

その都市事業公社のコージェネモジュールは、エッゲンベルガーさんのバイオガスプラントから2.3kmも離れたヴァルトシュタット地区にあります。その700世帯へ年間発電量300万kWhの送電とともに、年間330万kWh相当の熱(110℃高压熱水)も地域熱供給網で送られています。

ドイツは寒冷地であり、モスバッハに限らず伝統的に熱利用が盛んです。2009年のIEA統計では、470,547テラジュール産出され、日本の約20倍。ドイツの人口は日本の約64%なので、一人当たり換算では約31倍です。従来の火力発電所では、燃料が持つエネルギーのうち36%位しか電気エネルギーとして供給できませんが、コージェネでは87%もの高効率でエネルギーが使えるそうです。

日本の発電所で大半の熱を捨てているなんて、本当にもったいないことです。

(品川区環境記者 林彰一氏提供)

環境記者活躍中

「福島から食の安全を学ぶ」活動

西中延にお住まいで、福島でも農作物をお作りの環境記者新居崎邦明さんをご紹介します。

放射能禍や風評被害で苦しみながらも「放射能に克つ農の力」を抛り所に、安全な農産物を作っていこうとしている福島県の2軒の有機栽培農家と、こうした農家の方々と一緒に放射能禍を克服しようとしている大学の先生が一緒になって取り組んでいる活動の企画をしています。

こういった活動を通して消費者の皆さんに食の安全について改めて考えていただき、また福島県の農業



の復興に少しでもお役に立ちたいとお考えです。

8月25日から始まった米の全袋検査。検査機器は1台2,000万円で全県で164台が設置され、販売する米だけではなく自家消費米も検査すること。

二本松市在住の大内さんは、全袋検査だけではなく、独自の検査も行うことでより安全な米の出荷を追求しているそうです。



二本松市の米の全袋検査



有機栽培農家
大内さんの稲刈り

品川区環境情報活動センター 冬の講座ご案内

●古帯でおひなさまを作ろう

(中学生以上)

不要になった帯や着物を再利用して、かわいらしいひな人形を作ります。



日時／2月3日(日)14時～16時
講師／竹中信子(アートディレクター)

●「エコうま®」レシピでおいしい料理を作ろう

(小学生と保護者)

「美味しく」「楽しく」「食べ残さない」エコな料理のヒントを学びましょう。



日時／2月10日(日)11時半～13時半
講師／加瀬まなみ(料理研究家)

●熱帯の自然と環境を学び、ジャングル模型を作ろう

(小学生と保護者)

オランウータンの生息地・熱帯ジャングルと動物の棲む環境について理解し、ジャングルの模型を作ります。



日時／3月10日(日)14時～16時
講師／池田泰子
(ボルネオ保全トラストジャパン理事)

●春のこども環境講座 (小学生)

気象予報士から学ぼう～ストップ地球温暖化～



地球はどうして暖まるのか、その影響は、どうしたら防ぐことができるのか。実験や工作を通して学びます。

日時／3月20日(祝)身近な温度測定とエコうちわ作り

3月23日(土)竜巻発生実験と海面上昇実験

3月24日(日)雲画像地球儀を作ろう

各回とも14時～16時

講師／気象予報士(気象キャスターネットワーク)

講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。

しながわECOだより2012年度Vol.3

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日：平成24年12月7日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2012年度 Vol.4

しながわ環境大賞授賞式・みどりの顕彰式

平成25年2月16日(土) きゅりあん小ホール

しながわ環境大賞は今年度で7回目を迎え、区内で環境保全に関する優れた活動をしている団体を顕彰し、その活動を広く区民に紹介することを目的としたもので、今年は3団体が環境大賞を、6団体が環境賞を受賞しました。

「みどりの顕彰制度」は今年度で14回目を迎えます。地域の環境や景観の向上に資するような、優れた緑化を行った方々を顕彰し、区民の緑化に対する意識の向上を図るために設けられた制度で、今年は2団体が緑化大賞を、1団体が緑化賞を受賞しました。



しながわ環境大賞



緑化大賞

しながわ環境大賞受賞団体の活動をご紹介します

●株式会社 日立システムズ 環境ボランティア及びリサイクル活動の推進



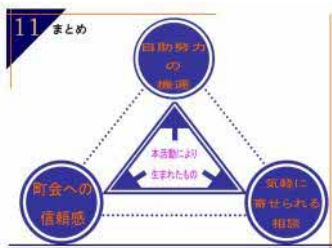
平成17年から毎月1回、社員が清掃活動に取り組み、また使用済み用紙をすべて回収し、その後再生した製品を再び自社に循環させて、コピー用紙等に活用するなどの活動をしています。



●荏原4丁目町会 地域での蚊・害虫駆除活動



蚊や害虫対策の点検と指導活動を町会員で取組み、また同時作業でポイ捨ての缶やビン、ペットボトルなどの収集等を行なっています。



●クリーン五反田 クリーン五反田



平成13年から毎月第2土曜日に商店街組合員及び西五反田1丁目町会並びに日野学園・地域センター・ゆうぼうと・三井生命・スターバックスコーヒー他地元企業と連携して清掃活動に取り組み、また放置自転車を減らす目的で街路灯周辺的美観を保つために植栽をするなどの活動をしています。



環境賞

池田印刷株式会社「朝当番活動」、明環クリーンウェブ「みどりと花のボランティア」、品川区おもちゃの病院ボランティア同「こわれたおもちゃの修理」、もったいない塾「『もったいない』で社会貢献」、品川区立富士見台児童センター「プールの水を再利用した打ち水と、ペットボトルを再利用した打ち水用ひしゃくづくり」、品川区立荏原第六中学校「ハートウォーミング六中」

緑化大賞受賞団体の活動をご紹介します

- 東洋製罐株式会社(事業者)：発表
株式会社竹中工務店(設計者)
東罐共栄株式会社(管理者)
大崎フォレストビルディング
(事業所部門)



高木を多数植栽しており、敷地内に植栽位置や開花時期等を



示した案内板を設置するなどの工夫が見られます。

- 株式会社サンケイビル(事業者)
株式会社熊谷組一級建築士事務所(設計者)：発表
ルフォン不動前管理組合(管理者)

ルフォン不動前
(住宅部門)

屋上やバルコニーにも多く緑化し、



居住者及び周辺住民からも緑が目につくよう整備するなどの工夫が見られます。



緑化賞

- 三菱地所レジデンス株式会社(事業者)
- 株式会社フジタ首都圏支社、SKM設計計画事務所
庄島設計室株式会社(設計者)
- ザ・パークハウス大崎管理組合(管理者)

ザ・パークハウス大崎

品川区の花「サツキ」

サツキはツツジ科ツツジ属の植物で、サツキツツジとも呼ばれます。皀月(さつき)は5月の別名ですが、サツキという名前は花の咲く月に由来します。



これは旧暦の五月で、サツキ
新暦では六月になります。日本原産で、河川の上流域の岩場に自生する溪流植物です。

溪流植物は環境に適応した固有種が多く、共通する特徴は、葉は小さく、葉の幅は狭く、根が発達します。近年はダム建設など水辺の形態変化の影響を受け、絶滅が危惧されるものもあります。

ツツジとの違いは花の時期が遅いことが一番に挙げられます。また花や葉、木の高さはツツジと比べて小さく小枝を多く出します。水が乏しい岩場に生育するため、乾燥に耐性があり、庭園の植栽や道路の植込みに多く使われるようになりました。

小型で枝分かれが多いことから、盆栽の素材として江戸中期にもはやされ、別種のマルバサツキとの交配に

より、多くの品種が作出されました。花色に変化が出たり、梅のような花卉のものなど変異が多く出て、珍重された品種を挿木で増やしました。江戸時代(元禄期)の園芸書には162品種がありますが、その後も新しい品種が盛んに作られ、現在は2-3000にも及ぶそうです。伝統的な「古花」は現在にも受け継がれています。

園芸品種の多いサツキやモミジが品川区の花や木になっているということは、ここは古くから人が集まる中心であり、花を愛でる文化や習慣が根付いていたことを示すものです。花の時期、どこに、どんな花が咲いているか、区内を訪ね歩いてみませんか。



珊瑚采



晃山

写真は園芸種の銘品です。「珊瑚采(さんごさい)」は5枚の細い花卉が特徴です。名前はサンゴのような色と、采は細かく切れた咲き方ということを表わしています。サツキの品種には見えないかもしれません。

「晃山(こうざん)」には朝焼けの空のような、淡い朱鷲色の花が咲きます。

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)

山中おやこエコクラブ 東京アースワーカーズコレクション グランプリ受賞

みんなで環境を考える共同行動についてのコンテスト「東京アースワーカーズコレクション2013」が2月3日(日) 清瀬市で開催され、品川区立山中小学校PTAの「おやこエコクラブ」がグランプリに輝きました。

「おやこエコクラブ」は山中小学校の第二校庭、屋上菜園(ガーデン)、学校周辺を活動拠点に、児童と保護者が身近な環境や自然を五感で体感できる活動を通じ、自然への関心と知識を深めています。

山中小学校PTAは4年前にエコクラブを発足させ、毎月1回土曜日に四季の移



ろいに応じたイベントと、年間を通した屋上菜園活動を行っており、これらの活発で継続的な活動が高く評価されました。また同クラブは昨年の「しながわ環境大賞」を(子どもエコクラブとして)受賞し、



「継続は力なり」を実証してくれました。



屋上菜園

緑のカーテン



紙漉き

自然エネルギー探訪記(最終回) 家庭向け蓄電池を試してみる

自然エネルギーの大半は、発電が一定でなく変動することが特色です。特に太陽光発電は、夜や雲の厚い曇りや雨、積雪の時間帯には発電出来ません。こうした時に電気を使いたい場合は、よそから電気をもらうか、貯めておいた電気を利用するかどちらかです。最終回は、家庭で電気を貯めて使うお話です。

昨年夏、私は仲間と一緒に中国製リチウムイオン蓄電池を共同購入しました。長時間停電の非常事態に備えること、電力供給が逼迫している時間帯に購入電力を落とすことが目的でした。2個で大容量の2.4kWh。円高で、お買い得の12万円でした。併せて、

- 充電器(コンセントから電気をとって蓄電池に充電)
- インバータ(蓄電池の電気を直流から交流に変換して電気を供給する機器)
- 接続ケーブル類



も必要です。インバータは冷蔵庫やエアコンでも使えるように、DC12V→AC100V、最大出力1500Wの正弦波タイプを選び、総額16万円程度で済みました。

実験では、満充電後、居室にあるパソコン、

液晶モニター、プリンタ、電気掃除機等の電源に使用し、消費電力や時間を計測しました。これらを断続的に20時間半使用し、2.07kWh消費したところで電圧低下ア

ラームが鳴り、電力ストップするまでの間、全く問題なく使い続けることができました。計算上、満タン量の86.3%が利用できたこととなります。そこから再度満タン充電するのに9時間半程かかりました。

こんなふうに使ってみて実感できたメリットは、

- 太陽光発電の電気でも電力会社から買った電気でも簡単に貯められ、いつでも使える利便性
- 非常時の安心感

という点です。電力会社との契約により、半額以下の割安な深夜電力を使って蓄電すれば、経済性も上がります。

他方、家庭で使うにあたっての課題も見つかりました。まず置き場所です。必要スペースは縦横高さそれぞれ35cm程度ですが、宅内に適当な場所を確保しなければなりません。インバータや充電器の冷却ファンの音も静かな部屋ではやや気になります。その他、残量表示や充電時30%、給電時10%ものエネルギーロス等も要改善です。

しかしメリットの効用は、課題点を補って余りある大きなもので、例えば、キッチン・ダイニングの照明、冷蔵庫、テレビや情報通信機器等の専用電源としてこの蓄充電システムを設置すれば常用できますし、長時間停電の非常時には家族のシェルター部屋に早変わりします。太陽光発電があれば、さらに強固なシステムになります。

大手電機メーカーもそこに目をつけて、上述の課題を解消した家庭向け蓄電池システム製品を続々と発表していますが、私の倍くらいの蓄電容量で約200万円の費用がかかるようです。(品川区環境記者 林 彰一)

「もったいない・・・」の気持ちを大切に

リサイクルショップ「リボン」をご存知ですか？

「リボン」はNPO法人エコタウンしながわが品川区の協力を得て運営しているリサイクルショップで、旗の台店と大井町店があります。



旗の台店 03-5498-7803

「ものを大切に使う」をテーマに

洋服、バッグ、雑貨や家具など、ご家庭にある品物の買い取りや委託販売をしています。

「捨てるのはもったいない」、「ご縁があれば他の方に使っていただきたい」、そんな品物がありましたら「リボン」をご利用ください。



お買い得品や掘り出し物をいろいろと揃えています。

「リボン」では、みなさまのご来店をお待ちしています。詳細はそれぞれのお店にお問い合わせください。



大井町店 03-5742-6933

品川区環境情報活動センター 春の講座ご案内

●牛乳パックで作る「紙トンボ」と「びっくり箱」(小学生)

期日/5月6日(祝)

募集/4月11日から <前回の講座>

講師/水野さゆり

(子供向けワークショップ 開催団体イクモ代表)



●今年こそ緑のカーテンを作しましょう(一般)

種まきから苗の植え付けを行い、あとは自宅での作業となります。

期日/5月12日(日) 募集/4月11日から

講師/丸山 均 <昨年の一例>

(しながわ区民公園管理事務所長)



●私にも始められる育エネ・省エネ生活(一般)

役に立つ育エネ(再生可能エネルギーの普及促進)・省エネ情報について、最新の動向を交えながら紹介します。

期日/5月19日(日) 募集/4月21日から

講師/林 彰一(家庭の省エネエキスパート)

●手回し発電機での発電実験と簡易モーター作り(小学生)

手回し発電機で発電に必要なエネルギーの大きさを確認し、節電の大切さを感じていただきます。

期日/6月2日(日) 募集/5月1日から

講師/山下浩三(クリーンエネルギー江東・事務局長)



●知って得するLED照明を使ってみよう(一般)

LEDの省エネ効果、取り換えるタイミングは・・・より効果的なLED照明の使い方を学びます。

期日/6月16日(日) 募集/5月11日から

講師/小宮章利(LED照明推進協議会広報委員長)



●夏休みに向けて「自然に親しむ」達人になろう(小学生)

希望者は作成した「自然観察レポート」に講師のアドバイスが受けられます。

日時/6月30日(日) 募集/6月1日から

講師/倉田智子(環境省環境カウンセラー)



●再生可能エネルギーの現状と将来(一般)

水素社会の到来で、世界の環境地図が変わります。

期日/7月7日(日) 募集/6月11日から

講師/津田慶治(日本国際戦略問題研究所所長)

●牛乳パックとペットボトルを使って不思議な噴水を作ろう(小学生)

噴出口の下にある水が、ポンプがないのに上に出てくるという不思議を体験します。

期日/7月14日(日) 募集/6月11日から

講師/安永隆志

(蔵前理科ふしぎ不思議(くらりか副代表))



講座の名称、期日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。

しながわECOだより2012年度Vol. 4

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日：平成25年3月13日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています